

## 2 四類感染症の発生動向

### 1) 四類感染症の患者情報

2022年の埼玉県及び全国の四類感染症の届出数を表I-2-1に示した。

表I-2-1 四類感染症の届出数(2022年)

疾患名		埼玉県	全国*
四類	E型肝炎	35	435
	ウエストナイル熱	-	-
	A型肝炎	3	69
	エキノコックス症	-	28
	黄熱	-	-
	オウム病	1	12
	オムスク出血熱	-	-
	回帰熱	-	25
	キャサヌル森林病	-	-
	Q熱	-	-
	狂犬病	-	-
	コクシジオイデス症	-	2
	サル痘	-	7
	ジカウイルス感染症	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	-	118
	腎症候性出血熱	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-
	炭疽	-	-
	チクングニア熱	-	5
	つつが虫病	-	492
	デング熱	2	98
	東部ウマ脳炎	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-
	日本紅斑熱	-	457
	日本脳炎	-	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-
	Bウイルス病	-	-
	鼻疽	-	-
	ブルセラ症	-	1
	ベネズエラウマ脳炎	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-
発しんチフス	-	-	
ポツリヌス症	-	1	
マラリア	2	31	
野兔病	-	-	
ライム病	-	14	
リッサウイルス感染症	-	-	
リフトバレー熱	-	-	
類鼻疽	-	2	
レジオネラ症	96	2,143	
レプトスピラ症	-	38	
ロッキー山紅斑熱	-	-	

\*全国は診断週(1~52週)の集計値

(-0)

埼玉県に届出のあった四類感染症は、E型肝炎35人、A型肝炎3人、オウム病1人、デング熱2人、マラリア2人、レジオネラ症96人の計139人であった。

## ア E型肝炎

男性 26 人、女性 9 人の計 35 人の届出があり、前年の 36 人を下回った（図 I-2-1）。症例の年齢は 30 歳代から 90 歳代に分布し、50 歳代が 9 人で最も多く、次いで 60 歳代が 7 人であった（表 I-2-2）。類型は患者が 32 人、無症状病原体保有者が 3 人で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgA 抗体の検出が 5 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 2 人、血清 IgA 抗体の検出のみが 27 人、血清 IgM 抗体の検出のみが 1 人であった。推定感染経路は経口感染 21 人、不明 14 人で、推定感染地域は国内 31 人、不明 4 人であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の 3 人は献血により探知された症例であった。

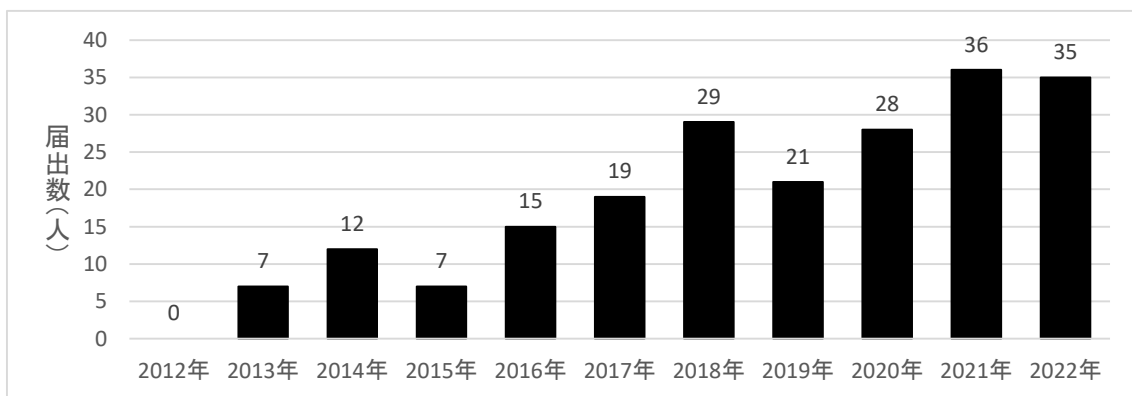


図 I-2-1 E型肝炎 年別届出数 (2012年～2022年)

表 I-2-2 E型肝炎 年齢階級別届出数

年齢階級	総数	男性	女性
10歳未満	-	-	-
10歳代	-	-	-
20歳代	-	-	-
30歳代	6	5	1
40歳代	5	3	2
50歳代	9	7	2
60歳代	7	5	2
70歳代	6	5	1
80歳代	1	1	-
90歳以上	1	-	1
合計	35	26	9
割合	100.0%	74.3%	25.7%

(-:0)

## イ A型肝炎

男性 3 人の届出があり、前年の 2 人を上回った（図 I-2-2）。類型は全て患者で、症例の年齢は 30 歳代、70 歳代及び 90 歳以上が各 1 人であった。診断方法は血清 IgM 抗体の検出のみが 2 人、検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 1 人であった。推定感染経路は、性的接触が 1 人、経口感染が 1 人、不明 1 人で、推定感染地域は国内が 2 人、不明が 1 人であった。また、ワクチン接種歴は、全て不明であった（表 I-2-3）。

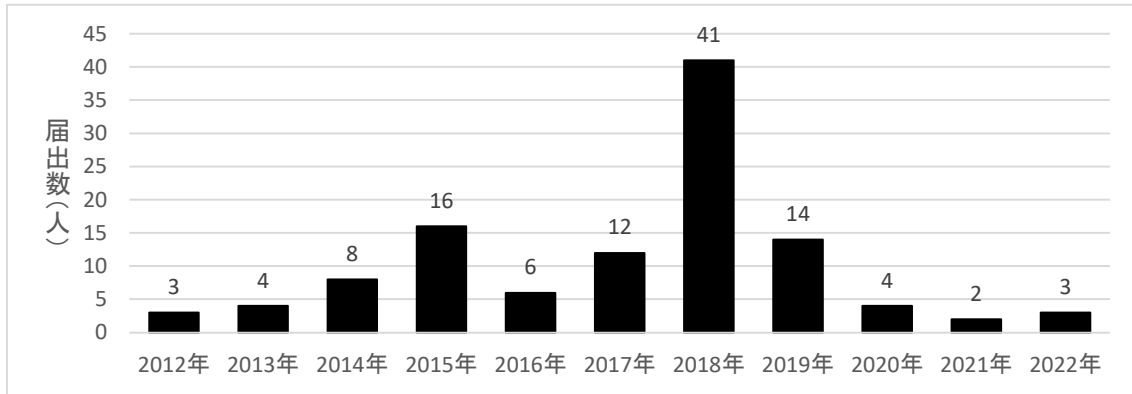


図 I-2-2 A型肝炎 年別届出数 (2012年~2022年)

表 I-2-3 A型肝炎 (n=3) の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法	推定感染経路	推定感染地域	ワクチン接種歴
2月	男	30歳代	血清IGM抗体の検出	性的接触	国内	不明
4月	男	70歳代	検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 血清IGM抗体の検出	経口感染	国内	不明
6月	男	90歳以上	血清IGM抗体の検出	不明	不明	不明

## ウ オウム病

過去 10 年で 3 人（2015 年、2018 年、2020 年）の届出があったオウム病は、2022 年は 8 月に男性 70 歳代 1 人の届出があった。類型は患者で、診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出であった。推定感染経路は鳥類との接触で、推定感染地域は国内（県内）であった。

## エ デング熱

昨年発生のなかったデング熱は、8 月に男性 30 歳代 1 人、10 月に女性 30 歳代 1 人の計 2 人の届出があった（図 I-2-3）。病型は共にデング熱で、診断方法は前者が PCR 法による病原体遺伝子の検出、後者が非構造蛋白抗原 (NS1) の検出であった。推定感染地域は前者がベトナム、後者がネパールであった。

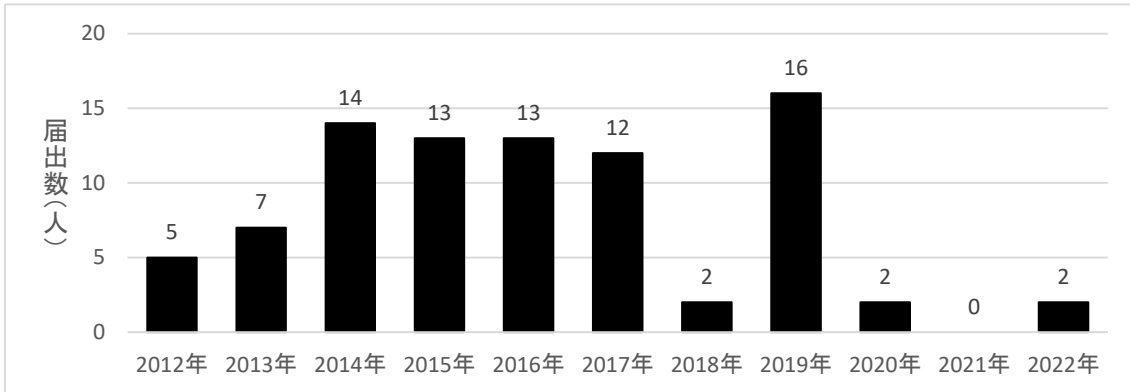


図 I-2-3 デング熱 年別届出数 (2012 年～2022 年)

### オ マラリア

1 月及び 8 月に女性 30 歳代の計 2 人の届出があり、前年の 2 人と同数であった (図 I-2-4)。病型は前者が熱帯熱で、後者が三日熱であった。診断方法は、前者が血液検体の鏡検による病原体の検出で、後者は血液検体の鏡検による病原体の検出及び血液検体の PCR 法による病原体遺伝子の検出であった。推定感染地域は前者がナイジェリア、後者がインドであった。

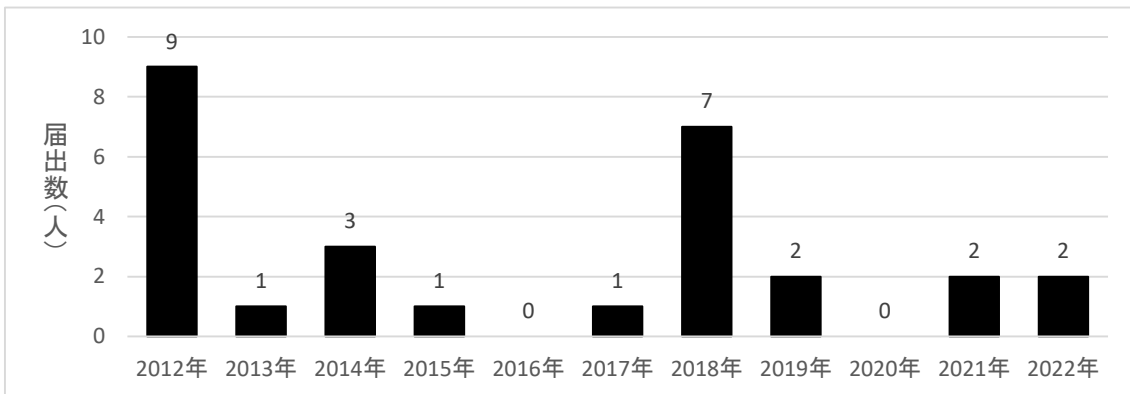


図 I-2-4 マラリア 年別届出数 (2012 年～2022 年)

### カ レジオネラ症

男性 78 人、女性 18 人の計 96 人の届出があり、前年の 99 人を下回った。症例の年齢は 20 歳代から 90 歳代に分布し、60 歳代が 23 人、70 歳代が 22 人、50 歳代が 21 人で多かった。類型は患者 95 人、無症状病原体保有者 1 人で、患者の病型別では肺炎型 93 人、ポンティアック熱型 2 人であった (表 I-2-4、図 I-2-5)。

年間を通して届出はあったが、5 月と 9 月にそれぞれ 20 人、16 人と届出が多かった (図 I-2-6)。

診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が 95 人、PCR 法または LAMP 法による病原遺伝子の検出が 8 人、分離・同定による病原体の検出が 8 人であった (重複例有り)。推定感染地域は、国内 84 人、国外 1 人、不明 11 人で、国内感染例のうち県内は 55 人であった。

表 I-2-4 レジオネラ症 年齢階級別届出数

年齢階級	男性	女性	総数	割合
10歳未満	-	-	-	0.0%
10歳代	-	-	-	0.0%
20歳代	1	-	1	1.0%
30歳代	-	-	-	0.0%
40歳代	3	-	3	3.1%
50歳代	20	1	21	21.9%
60歳代	19	4	23	24.0%
70歳代	20	2	22	22.9%
80歳代	11	8	19	19.8%
90歳以上	4	3	7	7.3%
合計	78	18	96	100.0%
割合	81.3%	18.8%	100.0%	

(-:0)

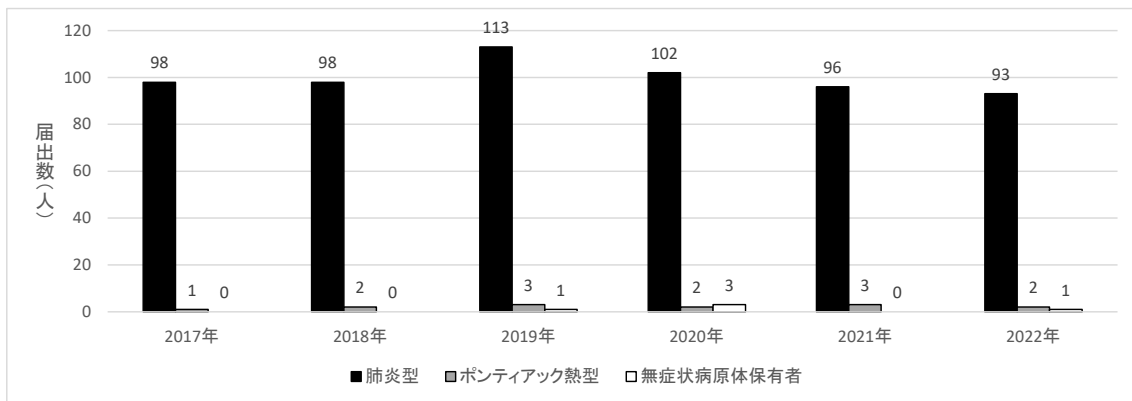


図 I-2-5 レジオネラ症 病型別届出数 (2017年~2022年)

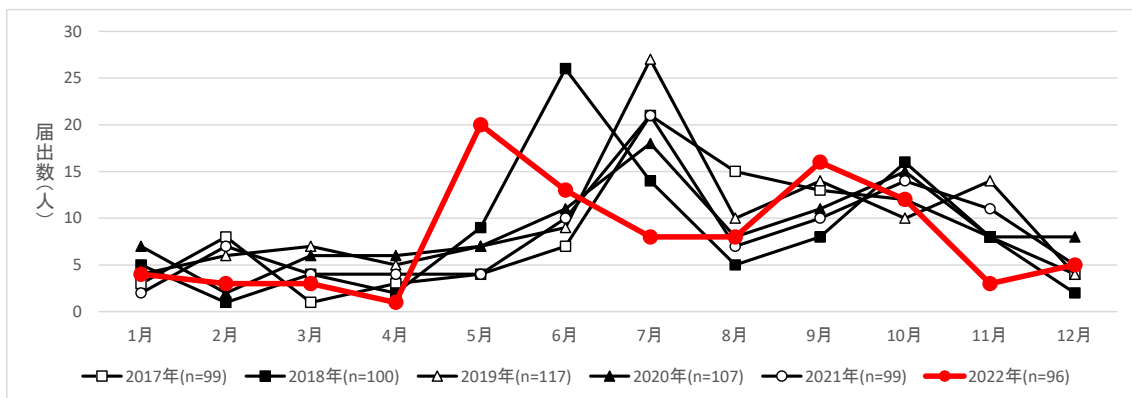


図 I-2-6 レジオネラ症 月別届出数 (2017~2022年)

## 2) 四類感染症の病原体検出状況

### ア E型肝炎

12例12検体が採取され、6例6検体からE型肝炎ウイルスが検出された(表 I-2-5)。遺伝子型は、G3が4例、型別未確定が2例であった。ウイルスが検出された6例に海外渡航歴はなかった。

**イ A型肝炎**

2例3検体が採取されたが、A型肝炎ウイルスは検出されなかった(表I-2-5)。

**ウ サル痘**

1例1検体が採取されたが、サル痘ウイルスは検出されなかった(表I-2-5)。

**エ デング熱**

2例3検体が採取され、1例2検体からデングウイルスが検出された(表I-2-5)。遺伝子型は2型であった。陽性の1例には、ベトナムへの渡航歴があった。

**表 I-2-5 四類全数把握対象疾患のウイルス検出状況 (2022年)**

臨床診断名	ウイルス	採取月 検体合計数												
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
E型肝炎	検体数			1	2	1	2	1	4		2		6	19
	E型肝炎			1			2	1	1		1		6	12
A型肝炎	検体数				2	1								3
	A型肝炎													
サル痘	検体数								1					1
	サル痘													
デング熱	検体数							2		1				3
	デング							2						2

**オ レジオネラ症**

肺炎症状を呈する患者から分離された *Legionella* 属菌は8株で、全て *Legionella pneumophila* 血清群1であった。また、LAMPのみ陽性を示したのは、4件であった(表I-2-6)。

**表 I-2-6 レジオネラ症 病原体分離状況 (2022年)**

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
<i>Legionella pneumophila</i> SG1	-	-	-	-	-	3	-	-	3	1	1	-	8
<i>Legionella</i> spp.(LAMP陽性)	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	1	-	4
計	-	-	-	-	2	3	-	-	3	2	2	-	12

(-0)